

## 地域と家庭、学校をつなぐ「学校キャラ」の誕生

～「つながり」のツールとして～

萩市立佐々並小学校愛育会

P T A 名称	萩市立佐々並小学校愛育会	学校写真 
所在地	山口県萩市大字佐々並2499	
学校地域の 概要・組織	<p>江戸時代に萩往還の宿場町として栄えた佐々並は、以前から自治会活動や地域の伝統行事等を通してつながりの強い地域である。特に地域とは「地域協育ネット」を通して、近隣学校や関係機関との交流活動が盛んである。けれども、近年、住民数減そして少子高齢化のため、児童数が最も少なくなり、地域の大きな懸案事項となっている。</p> <p>家庭数は10（児童数16人）で父母のどちらかが卒業生であり、とても親密につながっている。組織は、成人教育部と環境・保体部の2部であるが、活動は全員で行っている。</p>	
研究テーマ	地域と家庭、学校をつなぐを深める手立て	
成果と課題	<p>つながりを深めるために、佐々並小学校オリジナルの「学校キャラ」を作ることができた。児童の創意でデザインが集まり、佐々並の自慢や特色が表現された愛着のある「学校キャラ」が完成し、缶バッジなどを通して地域への周知も進んでいる。また、地域の要望で「地域のゆるキャラ」にもなっている。</p> <p>今後も「学校キャラ」を通して、地域住民と児童の会話のきっかけになり、そして学校教育や地域協育ネットの活動に関心をもつ入り口になることを期待している。また、地域や学校などの特色を生かしたキャラが郷土愛や愛着心を高める効果も望まれているので、しっかり周知していきたいと考えている。これからも「学校キャラ」を「つながり」のツールとして、有効に活用できるように努めていきたい</p>	

## 活動内容

### 1 はじめに

地域と家庭、学校をつなぐものはないだろうか。もちろん学校には学校イメージする校章があつて帽章や名札に記されており、身近にあるけれども親しみを感じられるだろうか。

学校以外では、イベントや県や市で「マスコットキャラクター」を作成して、イメージや親近感アップに役立てている。では、学校ではどうだろうか。近年、PTA活動を進めていく中、「共通のつながり」がほしいとずっと感じていた。そんな時、本校校長がこれまでの学校でマスコットキャラクター(学校キャラ)を作つて活用していることを知つた。校長は5年前に光市立浅江小学校で「あさ LOVE」、そして3年前に下関市立熊野小学校で「あい KUMA」、そして今年度は萩市立佐々並小学校で「ささラブ」を誕生させる流れを作つた。ここでは、誕生までの経緯や誕生後の周知活動について、振り返りながらまとめていく。



### 2 誕生まで

地域の方から「学校と地域のつながりは?」「地域連携って何?」という質問をよく受ける。説明すればするほど難しい話になることが多い。いろいろな見方もあるので、うまく説明できないのが現状である。本校のPTA活動のモットーは、「つながり」と「やりがい」としている。これらも説明することは簡単ではないが、もっとわかりやすく、簡単に目に見える「つながり」はないかと考え、「学校キャラ」が誕生した。

#### (1) 「学校キャラ」の誕生

この企画を進めるにあたり、最初に校長からの説明があつた。保護者の反応は「・・・?(そんな経験がないので無反応)」「イメージ通りに作れ?」「学校キャラなんて必要?」「費用は?」などであつた。けれどもこれまでの実績と効果の説明が校長からあり話が進んでいった。昨年度、山口県 PTA 連合会主催の「学校キャラ甲子園」が開催され、校長の前任校の熊野小学校の「あい KUMA」が最高賞のグランプリを受賞した。このイベントは、エントリーした学校キャラが公開されて、その中からネットで投票して各賞を決まるという仕組みであつた。多くの方からの投票があり、最高賞を受けることができた。その様子が山口県 PTA 連合会の広報に掲載されて全県に伝わり、そのことを知っていた佐々並小学校の保護者から強い要望もあり、保護者の了承を得て「学校キャラ」の作成企画が始まつた。コロナ禍で少しスタートが遅れたが、その後スピードアップして進めることになった。

### 3 「つながり」のツールとして

多くの方に学校や地域の特色を知ってもらうために、いろいろなツールが使われている。シンボルマーク、看板、旗、缶バッジなど、視覚的に有効なものが多く使われている。ツールを考える上で、大切なポイントを考えた。

- ① ツール自体に学校や地域の自慢(特色など)が含まれるもの
- ② みんなで考えて協力して作り上げることができるもの
- ③ 多くの目に触れやすいもの

以上のことを十分考えながら、「学校キャラ」の作成を進めていった。

#### 4 「学校キャラ」の作製過程

##### (1) デザイン募集

まず「学校キャラ」は児童の創意で作り上げることを念頭に置いて計画を進めることにした。早速、全児童と保護者、教職員にイラスト案を募集することになり、サンプル(他校の学校キャラ)を掲示して、応募用紙を配付し、図案とキャラクターの名前、メッセージも書いて応募してもらうことにした。

約 33 点の応募があり、集まったイラストはカテゴリー(学校や地域の特色)に分けて掲示して意見をもらうことになった。それぞれに思いや願いが表現されたイラストであり、学校や地域の特色自慢が満載であった。校長が毎回、光市在住のプロのイラストレーター(浅江小学校の保護者)に仕上げとデータ化を依頼しているので今回も依頼した。

それぞれカテゴリーに分けて展示した。その一部を下記に紹介する。

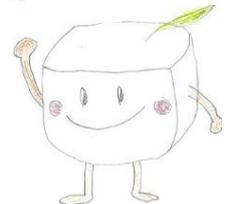
##### 大自然の深い山々

佐々並の深い山々。萩市から山口市までをつなぐ中間地点に佐々並が位置している。江戸時代は萩往還の宿場町として栄えた。



##### ささなみ豆腐(佐々並名産)

江戸時代から続く佐々並の名産として知られている。大豆を生搾りして作り、昔ながらのやや堅い豆の風味を生かした豆腐である。大変知名度も高い。



##### おいしいお米(佐々並名産)

清くおいしい山のわき水で作られる佐々並のお米は、とてもおいしく子どもたちの一番の自慢である。



##### 笹の葉(校章)

竹も豊富にあり、竹の子も名産である。校章にも「笹」が描かれており、「佐々」と「笹」をマッチさせている。

##### 総合(いろいろ)

いろいろな特色を合わせもつ「学校キャラ」もあった。とてもよくイメージ化されている。佐々並をよく知っている 6 年生のアイデアである。この他にも、動物をイメージしたものや花や笑顔いっぱいのイラストがたくさんあった。子ども達の思いや願いが、イラストを通していっぱい伝わってきた。



## (2)原案作成

集まったイラストをもとに原案を作製した。教職員から意見をもらいながら原案を修正していった。

各パーツは、募集イラストで多かったものを採用した。メインは「山」と「ささなみ豆腐」で、部品や装飾で特色を表現した。全体の色合いはやわらかくてさわやかな色、かわいくて愛らしい顔などを考慮したものになった。名前は、応募作では「ささ」や「やま」がつくものが大半であったので、「ささ〇〇」というネーミングで再度掲示して子どもたちに知らせた。子どもたちの意見の中で、かわいい名前がいい、愛をテーマにということになり、片仮名の「ラブ」とつけて「ささラブ」にすることを提案した。

## (3) 学校キャラ完成

プロのイラストレーターに全イラストと原案、そして聞き取ったみんなの思いや願いを伝えて最終構成を依頼した。ついに「学校キャラ」が完成してできあがり教職員で再確認した。佐々並の特色や自慢がみごとに表現されていた。

○名前決定・・・「ささラブ」

ふるさと佐々並を愛する子ども達を育てていきたいという思いが詰まっている。



## (4) 完成版の紹介

学校キャラが完成し、それぞれのパーツの「佐々並の自慢」の意味づけを考案した。

○顔の形・・・佐々並名産「ささなみ豆腐」色は白でなく、本物と一緒にアイボリー色

○頭の形・・・佐々並の深緑の深山

○頭の部品・・・清らかな佐々並川校章の笹 みんなでささえみんなでささえあう  
おいしい米

○瞳の色・・・空のように青く澄んだ青色

○ほっぺ・・・石州瓦の朱(あか)色

※佐々並市重要伝統的建造群保存地

○道・・・江戸時代の萩往還の宿場町

宣伝用のチラシを作製し地域に配付→



## 5 ツールの具体物作成

いよいよマスコットキャラクターの具体物の作成に取りかかった。まず多くの方にマスコットキャラクターを知ってもらうために、たくさん作って配付できる「缶バッチ」を作ることにした。缶バッチの製作会社を調べ、価格が安く品質のいい会社を選出した。データは、プロ仕様のイラストレーターで作成する必要があったので、イラストレーターに依頼してデータを作成してもらった。缶バッチの色は7色、大きさは直径3センチにした。帽子や名札につけるためのちょうどよい大きさにした。

今回の作成費用として、山口県 PTA 連合会の活動支援事業に応募し、活動支援金の助成を受け、最初の配付用 350 個の缶バッジを作った。全校児童や保護者(同居の家族も含む)、教職員、学校運営協議会員、学校支援ボランティア、交通指導の方々に配付した。この缶バッジは学校公認のため、安全帽や名札、カバンにつけていいことにした。登下校で黄色の安全帽の缶バッジが輝いて見えた。この缶バッジをきっかけに会話が弾み、子どもと地域の方との交流が深まっていくことを期待している。



- ・みんなで協力して作った「やりがい」
- ・佐々並小学校の親しみ度「つながり」アップ
- ・小学校時代の思い出づくり

## 6 おわりに

地域と家庭、学校をつなぐ「学校キャラ」として、子どもたちのアイデアを生かして「愛されるマスコットキャラクター」を作成した。これは、「つながり」強化ツールとして効果を上げている。そして、子どもたちが主体の活動であったため、みんなで協力して作った達成感が子ども達にとって小学校時代の思い出になったことだと思う。

本校 P T A の地域連携のモットーは、「つながり」と「やりがい」である。この「つながり」は気持ちが主であるが、この「学校キャラ」は、ものが人や地域をつなげる「つながりの種」と具体物になると考えている。「学校キャラ」の企画を周囲に話したとき、「学校キャラなんて必要？」という声が大半であった。これまでこのような経験がないので、効果も想像しにくいだろう。多くの学校では、作ってシンボル化して終わりというケースが多いが、ここでは「学校キャラ」が完成したら本当のスタートだと捉えている。多くの方に知ってもらうために、学校だよりや学校ホームページで繰り返し宣伝し、缶バッジやキャップ、キーホルダー、Tシャツなどを作り、身につけてもらうことでより親近感をもってもらうなど常に機会を捉えて宣伝をしている。

地区の行事でもチラシなどで「学校キャラ」のデザインが活用されている。缶バッジは学校支援ボランティアの方々にも配付し、それをつけて来校され、子どもたちとの会話も弾んでいる。共通の「つながりの種」が芽を出し会話の花として咲いているようだ。地域の方からも、「缶バッジがあると学校に行きやすい。」「散歩の時に付けて学校の宣伝をしていますよ。」「自分の子どもは卒業したけど、これをきっかけに学校が身近に感じられるようになったので、何かお手伝いをしたい。」という声が聞かれる。「缶バッジの効果はあるね。学校のキャラはいいね。」という声が聞かれようになると、地域と家庭、学校がつながりがさらに深まっていることを感じる。また、つながることによってそれぞれの様子がよく見えるようになり、家庭や地域からの学校支援の活動も多く知られるようになる。そして、それらの活動が共通認識されることでお互いの「やりがい」も高まると考えられる。今後も「学校キャラ」をツールとしながら、P T A 活動と地域連携教育を推進していきたい。

